令和４年１月９日

動植物の冬越し

ＮＰＯ法人四季の森里山研究会　小野、森本、上野

１、昆虫などの冬越し

① 成虫で；テントウムシ、カメムシ、スズメバチやアシナガバチの女王バチ、アカタテハなど
② 蛹で；アゲハチョウのほとんど
③ 幼虫で；カブトムシ、セミ、クワガタ、カミキリムシ、トンボの８５％など
④ 卵で；カマキリ、コオロギ、バッタなど

２、野草の冬越し

ロゼット：バラの花びらのような配列、放射状、らせん状に配列
　　オオバコ、タンポポ、ヒメジョオン、ナズナ

・ロゼットとして生きていけるのは、他の大型植物が生育できないような厳しい環境条件下に限られる。
　メリットとしては
　① 茎を作るためのエネルギー投資を節約できる。
　② 気温が低くても日射で温まった地面の熱で葉熱が上昇し、光合成が盛んになる効果がある。
　③ 風で傷つけられにくく人間の草刈りや動物の食害から免れやすい。
　④ 葉と葉の隙間をふさぐことで、低温の夜間に葉が凍結して傷害を受けるのを防いでいる。

３、樹木の冬越し

冬の木々は寒さに耐えるために様々な工夫をしている。落葉樹は葉を落とし、エネルギーを冬芽に蓄えじっと春を待つ。冬を越して翌春に成長する花芽や葉芽を一般に冬芽（とうが・ふゆめ）という。葉の落ちた痕は葉痕（ようこん）と言い、木によっては動物の顔に見える。

冬芽のタイプ

・鱗芽：魚の鱗に見える；シラカシ、コナラ、ケヤキ、サクラなど
　　：毛で被われている；コブシ、モクレン、ホオノキなど
・裸芽：被われていない；アジサイ、クサギ、ムラサキシキブなど
・陰芽：隠れてしまっている；ヌルデ、ネムノキ、ニセアカシアなど

オニグルミの葉痕

４、春の七草と効能

人日（じんじつ）の節句（1月７日）の朝に、７種の野草あるいは野菜が入った粥（七草がゆ）を食べる風習のこと。中国の七種菜羹（ななしゅさいのかん）が日本における「若菜摘み」という風習と習合することで生まれたものと考えられている。

セリ；水辺の山菜で香りがよく、食欲増進。
ナズナ；ぺんぺん草。江戸時代にはポピュラーな食材だった。
ゴギョウ；母子草。草餅の元祖。風邪予防や解熱に効果がある。
ハコベラ；目に良いビタミンＡが豊富。腹痛の薬にもなった。
ホトケノザ；コオニタビラコ。タンポポに似ていて、食物繊維が豊富。
スズナ；蕪（かぶ）のこと。ビタミンが豊富。
スズシロ；大根のこと。消化を助け、風邪の予防にもなる。

次回は２月１３日（日）１３時～「里山の春を探しに」